

釧路市教育委員会 平成31年第3回2月定例会会議録

1 日時：平成31年2月13日（水）13時30分から15時30分まで

2 会場：釧路市教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員

（事務局）

高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、江縁学校教育部長次長、  
藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、小野施設計画主幹、  
土江田総括指導主事、坂本青少年育成センター所長、仲谷学校教育課長、  
米田学校給食課長、上田北陽高等学校長、和田北陽高等学校事務長、  
澤口生涯学習課長、永井美術館長、工藤スポーツ課長、  
北澤国体推進室長、佐藤博物館長、古賀動物園長  
牧野阿寒生涯学習課長、山田音別生涯学習課長

4 議事録署名人 松尾委員、種村委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 株式会社ANAセールスとの包括連携協定の締結について
- (2) 第74回国民体育大会冬季大会（イランカラプテくしろさっぽろ国体）スケート競技会・アイスホッケー競技会の終了について
- (3) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】 報告事項

#### (1) 株式会社ANAセールスとの包括連携協定の締結について

(工藤スポーツ課長)

釧路市とANAセールス株式会社は、観光産業の活性化を目的とし、地方創生の推進、地域経済の活性化に資する事業などの実施において、連携及び協力するための協定を2016年2月25日に締結した。

これまで当市は、2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、ベトナムを相手国としたホストタウンへの登録、イランカラプテくしろさっぽろ国体の開催等、スポーツを通じた交流人口の拡大やそれに伴う地域経済の活性化について、取り組んでいる。

これらのことを契機とし、スポーツ課とANAセールス株式会社ひがし北海道支店との間で打合せを重ね、より地域に根ざした活動を進め、地方創生の推進、地域経済の活性化を図るには、スポーツ分野においても市とANAセールス株式会社が一体となった取組を進めていくことが必要との判断から、1月22日に協定再締結の運びとなったものである。

◎特に意見はなし。

### 【公開案件】 報告事項

#### (2) 第74回国民体育大会冬季大会（イランカラプテくしろさっぽろ国体）スケート競技会・アイスホッケー競技会の終了について

(北澤国体推進室長)

第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会は、「イランカラプテくしろさっぽろ国体」をテーマに、「北国の 雪と氷に 刻む夢」のスローガンの下、1月30日（水）から2月3日（日）までの5日間の日程で、市内4施設を会場に開催された。

大会役員、競技役員、協力者等を含めた総参加者数は、3,011人となり、そのうち選手団は、全国43都道府県（和歌山県・鳥取県・山口県・高知県は不参加）から、総勢1,745人の参加をいただいた。

1月30日の開始式前の歓迎アトラクションでは、ヒートボイスと釧路子どもミュージカルキッズロケットの皆さんによる大会イメージソングの披露、北海道くしろ蝦夷太鼓保存会と日本舞踊花柳流寿登芳会の皆さんによる太鼓と日本舞踊が共演する「岩鶴（がんかく）～サルルン・カムイ」、阿寒アイヌ工芸組合の皆さんによる「アイヌ古式舞踊」の3演目が披露され、アイヌ文化と釧路市の魅力を発信し、参加された皆様に深く感動を与えた。

参加都道府県旗入場の際の旗手を先導するプラカードを釧路北陽高校の生徒の皆さんが務め、通路近くの席に座った景雲中学校の1年生の皆さんがペンライトを振って旗手を出迎

えるとともに、式典音楽を担当した釧路北陽高校の吹奏楽局の皆さんには、力強く、息の合った演奏をしていただいた。

また、各会場では、市内全44校の小中学校の皆さんが制作した「応援メッセージのぼり」が華やかに彩り、大会当日は、市内小中学校15校から2,618人の児童・生徒が各競技会場において、小旗を振って応援観戦し、会場を盛り上げていただいた。

さらに、釧路商工会議所を中心とする「釧路市おもてなし推進本部」においては、宿泊施設・釧路空港・釧路駅への「歓迎のぼり」の設置や商店街・歓楽街等への「歓迎ポスター」の貼付を行うとともに、各競技会場には「おもてなしコーナー」を設置し、「釧路商工会議所女性会」並びに「釧路を元気にする華実の会」の2女性団体の皆様のご協力のもと、郷土色あふれる汁物や温かい飲物を提供するなど、真心あふれる「おもてなし」をしていただき、訪れた選手団などから大変好評であった。

本大会は、全国から参加される選手の皆さんが、ベストコンディションで競技に臨めるよう万全の運営体制を整えることが出来たものと考えている。

大会期間中は好天にも恵まれ、また、教育委員の皆さんをはじめ、多くの市民の皆さんの温かい歓迎やご協力により、無事終了出来たことに、この場をお借りして深く感謝を申し上げ、終了報告とする。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(松尾委員)

おもてなしの心がすごくよく出ていたと思った。のぼりについても、とても目についたと思う。ただの国体ののぼりではなく、それぞれの県の名前が入っていて手作り感があってよかったと思った。また、フィギュアスケートを見たときに子どもたちが午前中、授業の一環として応援に来てくれて旗を振って応援している姿を見て、選手の皆さんも喜んでいただろう。子どもたちも楽しんでいただろうと先生方から聞いた。スケートは外だったので寒かったとは思いますが、子どもたちにとっていい刺激になったのではないかと思う。今後の釧路の冬季スポーツでの活躍を期待したい。

(山口委員)

国体推進室の皆さんを中心に、自分たちも含めてオール釧路で盛り上げた大会だったのではないかと思う。先ほど松尾委員が言っていたのぼりについて、参加した人たちも視察に来ていた県も写真をとってぜひ参考にしたいと言っていた。柳町のリンクはとても寒くて、釧路人である私も応援していて寒くなって早々に引上げるという状況もあった。本州から来た選手団の方々はあの寒さは初体験だったのではないかと思う。国体は終わったがまだ残務整理等があると思う。お疲れ様と言いたい。

(岡部教育長)

のぼりは今どうなっているのか。

(北澤国体推進室長)

各学校に返す予定である。カウントダウンパネルも返している。

#### 【公開案件】 報告事項

##### (3) 学校の現状について

(土江田総括指導主事)

まずはじめに学力向上セミナーⅢの開催について報告する。

2月8日(金)、釧路市教育研究センターにおいて、学力向上セミナーを開催した。このセミナーは、各学校の学力向上の取組の充実に資するために実施するもので、釧路市標準学力検査の分析結果について説明するほか、各学校の学力向上の取組として、学習習慣定着事業に取り組んでいる東雲小学校の実践を情報提供した。12月実施とともに導入している個別復習教材は、復習用の教材プリントを作成できるものであり、苦手な内容を例題で丁寧に解説したフォローアップシートと苦手な内容の練習問題を反復学習する弱点克服ドリルで構成されている。

年度末の授業のまとめの時間に学級全体で取り組むほか、宿題として扱うなど、学級每でばらつくことなく、学校全体の活用方法を共通認識され、組織的に活用されるよう、先日の校長会議においてお願いしてきたところである。また、これまで各種検査において中学校数学における課題が顕著に表れたことから、各中学校から数学科の先生1名に参加いただき、今後の改善に関する取組内容を具体的に立案するなど、研修を行い各校での交流をお願いしたところである。

次に小中連携研修会の開催について報告する。

実施日については、7月10日(水)を基本としながら、校区内の学校の実情に応じて変更可能としている。なお、阿寒地区、音別地区はそれぞれの研究会での取組が小中連携となっていることから、その取組を持って可能とする。中学校区の学校が校内研修の機会を合わせ、すべての教職員が参加する研修と考えている。

内容の具体例については、一つ目として、各学校の先生方の半数がそれぞれ小学校や中学校に分かれ、お互いの授業参観を行い、児童生徒の学びあい活動の位置づけなど共通の視点で協議する合同研修が考えられ、この形が望ましいと考えている。

もしくは、小中学校の先生方が混合するグループをつくり、教務部担当者による部会をはじめ、研修担当部会、生徒指導(生活)部会、健康部会等の先生方が学習規律の連続性、家庭学習の習慣化に向けた取組、学習の手引きの見直し、生活の決まり、不登校児童生徒の対応、生活リズムチェックシートの共有、体力向上の取組などのテーマのもと、各校の取組を情報交流しながら小中の接続を意識することが考えられる。

すでに青陵中学校区、桜が丘中学校区においては、長期休業中を活用して合同研修会が開催されているところであり、その機会を7月にもってくることも可能と考えている。

実際の取組は各中学校区の主体的な取組によるところが大きく、中学校区内で連携を図りながら進めなければならないと考えているが、各学校の代表による小中連携協議会で検討し

ていただきながら進めていただく予定である。

最後に平成30年度教育研究センター研修講座の終了について報告する。

今年度の研修講座については2月19日（火）実施予定の体育科教育をもってすべての講座を終了する予定である。今年度は昨年度よりも1講座多い32講座を開催してきたところであり、釧路市内小中学校の先生方の受講に関しては延べ1,309名の参加見込みとなっている。受講率に関しては、145.6%の見込みになっており、昨年度とほぼ同様の参加となっている。もともと目標として掲げている受講率は120%だったので、大きく上回ることができている。今年度も目標値を達成できた要因としては、全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、基礎学力検証改善委員会との共同研究として国語科教育と算数数学科教育の講座を小学校、中学校別の日程で行うなど内容の充実を図るほか、道徳の授業づくりに関する講座、プログラミング教育に係る講座、英語教育や外国語活動に関わる講座など、学習指導要領の改訂に伴う必要性のある講座を設定したこと、また、研究指定及び自主公開による公開研究会など、授業実践を中心とした研修講座を多く開催したことが要因と考えられる。また、絵画に関する講座は地域人材の活用を図るなど32講座中10講座において各種研究団体等との連携強化を図り、共催で開催したことが受講率の向上につながったものと考えている。さらに、各学校において1人1講座の参加など校外研修の積極的な参加の働きかけによるものも大きかったと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

センター講座の参加状況について、受講率が目標値より上回っていて内容も工夫して先生方に中身の濃い研修を受けていただいたという説明があったが、できれば各学校ごとの調査を実施してもらいたい。講座に何回参加した先生がいるか、そして研修講座に参加した人の人数、講座に一回も参加していない人の人数の内訳を調査してほしい。どうしてもこの先生に出てもらいたいという先生が本当にこの研修講座でスキルアップを図る努力をしているのかをぜひ見てみたい。可能か。

（土江田総括指導主事）

参加者に関しては、誰が参加したのかはすべて把握しているのでそこに関しては可能である。

（山口委員）

学力向上セミナーの開催と小中連携研修会の説明を受けて、今まで教育委員会の中でも子どもたちの学力向上に向けて小学校の授業改善は進んできているが、中学校は教科の壁などもあり、期待どおりの成果が出ていないので何とかしなければならない。そのための対策として、学力向上セミナーと小中連携研修会を開催するということはすごく良いことだと思う。学力向上セミナーの事例として、東雲小学校の学習習慣定着推進事業はなかなか良い成果が表れていて、そこに入っている退職校長の先生方も一生懸命頑張ってくれているという話を

聞いている。学習習慣定着推進事業は小学校だけではなくて、中学校でも教科の壁を取り払ってやろうという事はみんなで取り組める内容だと思う。ぜひそういう部分からも中学校へのアプローチを考えてもらいたいと思う。それを具体化するための小中連携研修会も、すべての中学校区で行っていくことを考えていると思うが、中身のあるやってよかったと思える取組にしてもらいたいと思う。

(土江田総括指導主事)

中学校区の小中連携研修会に関しては、それぞれで行っているところはあるが、全ての中学校の校区で行えるように課題等を確認しながら取り組んでもらえるよう推進していきたいと思う。